

(社) 日本原子力学会  
第81回倫理委員会議事要旨

日 時 平成26年9月19日(金) 13:00~17:00  
場 所 日本原子力発電 第二会議室  
出席者 大場委員長、宮越副委員長、作田幹事、内山委員、宇奈手委員、大鷹委員、  
中野委員、名倉委員、福家委員、三村委員  
柴田副会長 (11名:委員名簿順)  
オブザーバー: 奈良林氏、宮澤氏

配布資料

- 資料81-1 第80回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料81-2 2014年秋の大会倫理委員会企画セッション議事メモ(案)
- 資料81-3 事例②: 原電新設堰
- 資料81-4(1) 第18回(2014年)倫理研究会案
- 資料81-4(2) 倫理研究会実施ステップ
- 資料81-5 倫理委員会への立候補のお願い(山本様)
- 資料81-6(1) 良好事例とは
- 資料81-6(2) 倫理委員会事例集タスクチーム打合結果(@H26.8.25)
- 資料81-6(3) 福島第一原子力発電所第五、第六号機の冷温停止
- 資料81-7(1) 平成26年度第一回ポジション・ステートメントWG議事次第
- 資料81-7(2) 第八回東北原子力シンポジウム
- 資料81-7(3) 日本工学会技術倫理協議会第10回公開シンポジウム

議事

1. 資料81-1により、前回議事要旨(案)を確認し、了承された。
2. 資料81-2により、2014年秋の大会企画セッション結果について、宮越副委員長から説明があった。質問や有意義なご意見を多数いただいた。今後、1Fの事象に対し、更に倫理的な視点での議論を深めていく必要がある。結果だけを見ては駄目で、どのように未然防止に努めたかが重要。倫理についての基本的な考え方は、学会誌や事例集に示していく必要がある。
3. 資料81-3により、2015年春の年会企画セッション案について、大場委員長から説明があった。事例として、日本原子力発電殿の新設堰工事が挙げられた。担当の福家委員および三村委員が、事例の経緯などを調査のうえ、提案書案を作成し、メールにより委員のコメントを受けることとした。学会事務局への提出期日は、10月20日である。
4. 資料81-4(1)(2)により、第18回倫理研究会について、宇奈手委員から説明があった。日程、場所は、平成27年1月8日(木)午後、北海道大学とした。テーマは、「安全文化の醸成—個人と組織—(仮題)」とし、JR北海道と北海道電力の活動状況紹介、吉澤氏の東電福島事故に関する講演、および講演者および奈良林氏の四人によるパネルディスカッションとした(ファシリテータは大場委員長)。JR北海道および吉澤氏については大場委員長が、北海道電力は奈良林氏がその調整を担当することとした。
5. 資料81-5により、山本氏の倫理委員立候補のお願いについて、作田幹事から説明があ

り了承された。9月26日開催予定の第3回理事会において、柴田副会長から奈良林氏と宮澤氏も含めた3名を報告することとした。

6. 資料81-6(1)～(3)により、事例集の検討状況について、大場委員長、宇奈手委員および福家委員から説明があった。何が倫理的なことかを整理し、答えを示さずに議論することを目的とするが、具体的な作成方針は今後、明確にする。作成目標は、年度末とした。そのほか、以下のような意見が出された。架空の議論も入れると良い。倫理委員会の考える倫理とは何かを、文章として入れては。事実と考察は分けて整理すると良い。7原則をカバーする事例を探すと良いのでは。2015年春の年会で紹介しては。

7. その他

(1) 資料 81-7(1)により、ポジション・ステートメントWGの第一回会合について、大場委員長から説明があった。開催予定の9月25日は、参加できる委員がいないことから欠席することとした。

(2) 資料 81-7(2)により、第八回東北シンポジウムの案内について、大場委員長から紹介があった。

(3) 資料 81-7(3)により、日本工学会技術倫理協議会第10回公開シンポジウムの案内について、宮越副委員長から紹介があった。

8. 次回以降の倫理委員会の日程は、11月7(金)13:30～(学会事務局会議室)、H27年1月9日(金)09:00～(北海道大学会議室)とした。

以上